
握り尻

左右緒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
握り屁

【Nコード】
N5264V

【作者名】
左右緒

【あらすじ】
人間って一番記憶している感覚は実は匂いだと言われていること
もあるそうです。

屁をこくとはとても恥ずかしい事である。

同席していた同僚の田中も音に気付いたらしく、私を見て少し笑うのだ。

しかし、私は屁をこいてはいない。

違うのだと田中に言いながら、このホテルのロビーで取引先の人を待っている。

屁で思い出したことがある。

もう二十年前のことになるのか。

私がかつて高校生であつた頃。

美術の時間であつた。付き合っていた彼女が隣でローマの賢人の彫刻を模写している最中であつた。

いきなり突き出してきた握りこぶし。じゃんけんでもするのかと疑つて、自分はパーをだす。

違うと否定されながら、その握りこぶしを開いた彼女。

芳ばしい匂いがそこから溢れだす。

臭いと言えば、彼女は笑いながらもう一度しようとする。

そんなこともあつたなと、考えながらクスツと笑うと、隣に居た田中がまた笑いだす。

違うのだと否定しているのだが、それでも私が屁をこいたのだと笑っている

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5264v/>

握り屁

2011年10月9日13時02分発行